

インド国内のみならず、世界的大企業でも活躍するインド系のトップ人材。
英国ではついにインド系の首相が誕生。

メイド・イン・インド ～世界を席巻するインド系トップ人材～

▶ 世界的大企業で活躍するインド系CEO（最高経営責任者）

✓ 世界的大企業でインド系のCEOが増えています。2022年11月末時点で、以下のような著名企業のCEOがインド人またはインド系の人材となっています。

企業名	CEO
マイクロソフト（米）	サティア・ナデラ氏
Google（米）	サンダー・ピチャイ氏
IBM（米）	アービンド・クリシュナ氏
シャネル（仏）	リーナー・ナーイル氏
ノバルティス（スイス）	ヴァサント・ナラシンハン氏
スターバックス（米）	ラクスマン・ナラシムハン氏（2023年4月就任予定）

▶ トップ人材量産の背景

✓ グローバルで活躍する日本人CEOがほとんど見当たらない中で、上記の様な著名企業でインド系CEOが増えているのは何故でしょうか？ 一般的には、以下のような背景があるのではないかと推測されています。

① 高い数学能力と高等教育

インドはゼロを発見した国として有名であり、政府としても特に長い歴史を持つ数学に焦点を当て、教育に力を入れてきたこと。また、エリート養成のための高等教育は、インド工科大（IIT）やインド経営大学院（IIM）など、世界的にみてもレベルが非常に高いこと。

② 英語が堪能

インドはかつてイギリスの植民地であったことから、英語を準公用語としており、英語が広く共通言語として使用されていること。

③ 多様性

様々な民族、宗教、言語が入り混じった環境に慣れたインド人は、海外での生活や仕事に適応し易いと考えられること。

④ 大きな人口

インドは2023年にも中国を抜いて世界第1位になることが予想される人口大国であること（潜在的に優秀な人材の母数も多いと考えられます）。

▶ 政治の世界でもインド系の人材が活躍

✓ 東アフリカからイギリスに移住したインド系の両親を持つリシ・スナク氏が、与党・保守党の党首選で勝利し、10月25日にイギリス首相に就任しました。英国初のアジア系首相です。





ご留意事項

- 当資料は、情報の提供を目的として、パインブリッジ・インベストメンツが作成した参考資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありませんし、特定の有価証券の売買、ファンド、商品を勧誘、推奨するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料中の記載事項、数値、図表等は、当資料作成日時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。なお、当資料中のいかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第307号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会